

●盲導犬ものがたり

フー子とママのふたり

福沢美和・著
安徳美和子・絵



筆者紹介

著者 福沢美和
ふくざわ みわ

東京に生まれ、白百合高等女学校を卒業。1958年に盲人と晴眼者の親睦サークル〈ひとみ会〉をつくり、活躍している。1976年12月より盲導犬フロックスとともにくらすようになった。著書に『白い杖の希い』（文化総合出版）、『犬と私と白い杖』（山本書店）などがある。住所／神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平
フジタ箱根山マンション1115号

画家 安徳美和子
あんどく みわこ

静岡県熱海市に生まれ、東京芸術大学油画科を卒業。国画会に出品。グループ展、個展なども意欲的に行なっている。児童書のさし絵ははじめてだが、絵本のアイディアなども豊富で、今後の活躍が期待される。住所／神奈川県綾瀬市綾西5-9-1



と フー子とママのふたり

1980年8月 初版1刷

著者 福沢美和

発行者 今村 廣

発行所 偕成社

東京都新宿区市ケ谷砂土原町3-5

振替 東京5-1352番 ㊟260-3221

©福沢美和・安徳美和子 1980

印刷所 新興印刷製本株式会社

N. D. C. 913 156p.

製本所 文勇堂製本工業株式会社

* 落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。

Published by KAISEISHA. Printed in Japan

8093-417020-0904

●^{もうどうけん}盲導犬ものがたり

フー子とママのふたり

福沢美和・著／安徳美和子・絵



わたしたちふたり

この道^{みち}も、あの町^{まち}も、

わたしたちは、いつもふたりで行く。

かさこそと、風^{かぜ}になる木^この葉^はも、

みせのあかるいショーウィンドーも、

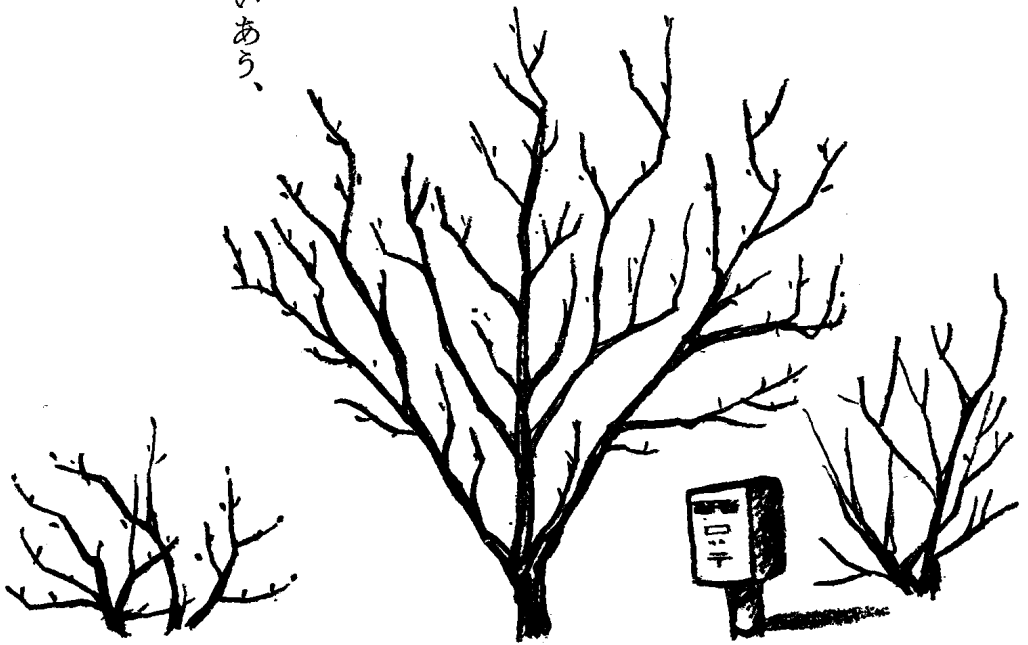
わたしたちふたりに、よびかけてくれる。

「あなたたちは、たのしそう。」

そして、とてもしあわせなのね。」

ハーネス（盲導犬用胴輪^{もうどうけんようどうわ}）のハンドルにかよいあう、

わたしたちの心^{こころ}は、いつもひとつ。



このかどをまがって、
あのえきから電車でんしゃにのろう。
足あしどりはかるく、

ふたりだけの道みちは、どこまでもつづく。

こうしてあるいていくうちに、

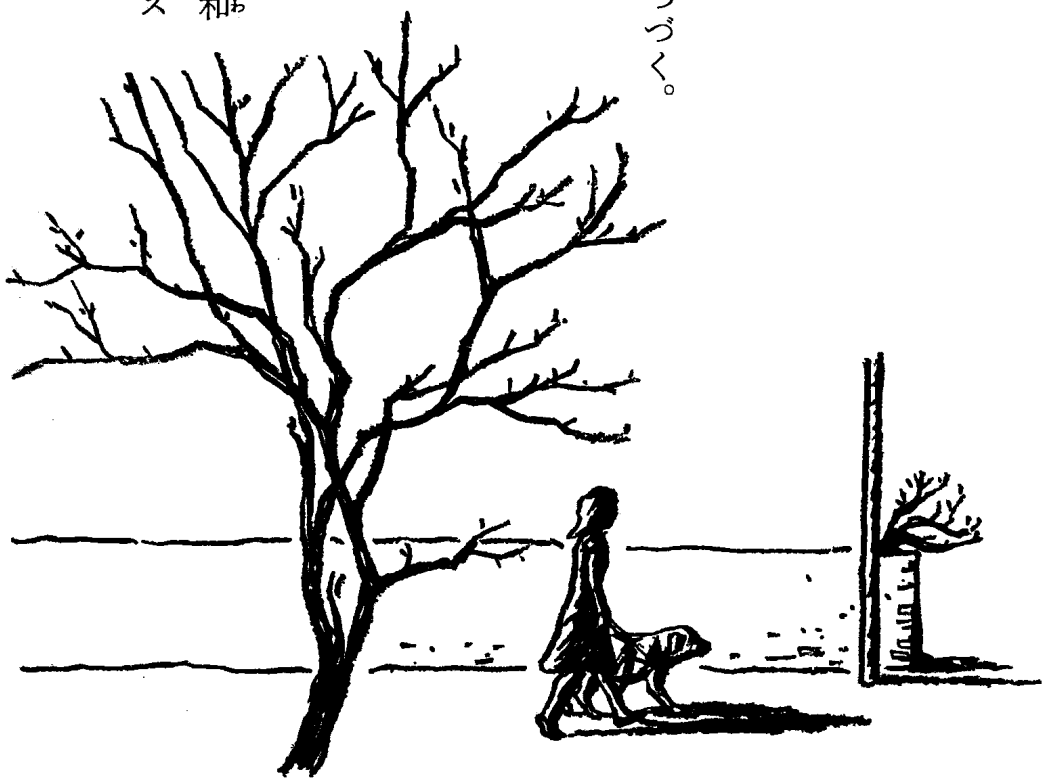
〈見みえない〉ということばは、

いつのまにか、

わたしたちのそばから、

きえていってしまった。

著者 福沢美和
盲導犬 フロックス



もくじ

ママがいた…………… 8

盲導犬…………… 14

電車もデパートも…………… 24

フー子、おめでとう…………… 37

うれしい おつかい…………… 48

なかまからの てがみ…………… 63



雨^{あめ} ふり……………78

ママと おきやくさま……………90

町^{まち}をあるいて……………116

フー子^こ、ありがとう……………128

●解説^{かいせつ} 盲導犬^{もうどうけん}について……………

東京盲導犬協会理事長

塩屋賢一^{しおやけんいち}……………148



表紙絵・安徳美和子

協力・東京盲導犬協会

盲導犬ものがたり

フー子とママのふたり



福沢美和



ママがいた

あたたかいたたいようの^ひ日ざしが、ここ^{もうどうけんきょうかい}盲導犬協会のグラウンドにいつぱいで、きょうも^{ふゆ}しずかな冬のはじめの一日^{いちにち}です。

フー子は、なかまの^{いぬ}犬たちと、ふざけっこをしたり、ねころんで日なたぼっこをしたりしていました。そこへ、^{いん}しどう員の^{せんせい}先生がやってきて、フー子にひきづなをつけました。

「おや、くんれんにいくのかしら。」とおもって、フー子が先生についていくと、いつもとはちがうドアから、たてもものなかへはいつて、ひろい^{しょく}食堂^{どう}へつれていかれました。そこには、なん^{にん}人かの知らない人が、こしかけ

ていました。

「ああ、見学けんがくのおきやくさんだわ。それで、わたしが盲導犬もうどうけんの見本みほんに、こへつれてこられたのだわ、きつと。」

フー子は、すぐにそうおもいました。まえにもこんなことがよくあつて、協会きょうかいを見学けんがくにこられたおきやくさんのまえにだされ、あたまをなでられたり、みんなのまえで、あるいたりすわったりしてお目めにかけ、「おりこうね。よい盲導犬もうどうけんになつてちょうだいね。」などと、いわれたものでした。

この盲導犬協会もうどうけんきょうかいというのは、目のみえない人の目のかわりとなつて道みち案内もうどうけんをする盲導犬もうどうけんをそだてて、つくりだしているところです。そして、目のみえない人たちに、この盲導犬もうどうけんといっしょにあるくことをおしえていきます。フー子はここで、盲導犬になるためのくんれんをうけているのです。

でも、きょうはすこしうすがちがいました。しどう員いんの先生せんせいは、フー子おんなをひとりの女の人のまえにつれていくと、

「これが、あなたの犬いぬですよ。名なまえはフー子です。」

といって、ひきづなをその女の人にわたしました。サングラスをかけてオレンジ色いろのセーターをきたわかい女の人は、フー子のあたまをなでて、

「いい子ねえ、いい子ねえ。」

と、なんどもなんどもいいました。フー子はこの人がすぐすきになりました。だから、

「わたし、うれしいなあ。」

と、女の人のかおをぺろぺろとなめました。フー子たちがうれしいとき、あいてのかおや手てをなめると、「いやあ。」とか、「きゃあ。」などといやがる



人がいるけれど、この女の人は、
「なめてくれるの、ありがとう。」
と、とてもよろこんでくれました。
フー子はうれしくて、いつまでも
いつまでもあまえていました。

フー子がきがつくと、いつのま
にか、いつもあそんでいたジョン
とエルも、おなじようにこのへや
へきて、それぞれ男おとこの人になでて
もらっていました。

「きょうはいったいなんなのかし

ら？　そして、この人たちはだれなのかしら？」

フー子は、わけがわからなくなってきました。

しばらくして、フー子は女の^{おんな}人といっしょに、ベッドやロッカーやせんめん^{だい}台などがあるへやにきました。へやにはいると、フー子はすみっこのくさりにつながれました。

「きょうからわたしの子になってね。よろしくね。」

と、女の人^{おんな}はフー子に、なんどもほおずりをしながらいきました。そのときフー子はふと、小さいときにテレビできいたうたをおもいだしました。

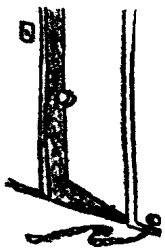
♪こんにちはあかちゃん、わたしがママよ。♪

という、あのうたです。

「この人、きつとわたしのママなんだわ。わたしにはどうしてママがいないのかとおもってたけど、やっぱりいたんだわ。よかったなあ。うれしいなあ。」

フー子はともうれしくて、おお大きなしっぽをゆさゆさとふりながら、ママのかおをなめつづけるのでした。

この日は、もうどうけんきょうかい盲導犬協会の入所式にゆうしよしきだったので、もうどうけん盲導犬がほしい人たちは、ここへやってきて、しゅうかん四週間とまりこんでくんれんをうけ、もうどうけん盲導犬といっしょにあるくことをおそわるのでした。





盲導犬

フー子は、ラブラドル・レトリバーというしゅるいのめす犬で、生後一年六か月、からだの色はうすいベージュのような色です。毛のながさはみじかいほうですが、かなりぶあつくて、びっしりはえています。しっほは、ねもとがふとくて、さきがほそく、ちよつとカワウソのおにいています。からだの大きさは中ぐらいで、まえ足がまっすぐにのびています。

イギリスの女王さまは、ラブラドルをたいへんかわいがっておいでになり、ご旅行にいらつしやるときも、つれていらつしやるということです。ラブラドルは、水鳥の猟をする人のでつたいをしてはたらく犬ですが、

とともりこうで、おとなしく、よくきがつくので、盲導犬もうどうけんとしてはたらい
ている犬いぬがたくさんいます。かんがよくて、それに人間にんげんといっしょにある
くのは、ちょうどよい大きさです。フー子のような色いろはイエローとい
ますが、ほかにくろくて、ブラックといわれる毛色けいろもあります。

盲導犬もうどうけんになる犬は、りこうでなければなりません、いくらりこうでも、
おくびようだったり、あまりしんけいしつすぎてはだめなのです。目めのみ
えない人とあるいてるときに、大きな音おとにおどろいてにげだしたりした
ら、たいへんです。だから、なんびきもうまれた子犬こいぬのなかから、盲導犬もうどうけん
になれそうな犬をえらびださなければなりません。

えらばれた子犬こいぬは、うまれてから二か月げつのころから約一年間やくねんかん、ふつうの
家庭かていにあずけて、そだててもらいます。なるたけ子どもこどものいる家いえで、人間にんげん